

とちぎ米産地だより 【5月号】

<24年産のとちぎ米に関する情報をいち早くお届けします！>

第2号 平成24年5月9日

発行責任者:JA全農とちぎ 米穀課

1. 米穀課長のコメント

日頃よりとちぎ米をご愛顧賜り誠にありがとうございます。23年産米については、作柄は平年並みであったにも関わらず、皆様から要望された数量を十分に確保できずご迷惑をお掛けしました。24年産米については、皆様の期待に対応できる「信頼の産地とちぎ」を目指し、①確実な集荷数量の確保、②安全性の確保、③品質の向上を図るため各種施策に取り組んでまいり所存ですので、引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。なお、報告が遅れましたが「とちぎ米産地だより」を毎月発行することといたしました。希望する情報等があればお気軽に申しつけいただければ幸いです。

2. とちぎ米生長日記

栃木県では田植えの最盛期を迎えています。

写真は県内の田植え風景です。(5月8日(火)芳賀町 綱川仁一さん圃場にて撮影)
懇切丁寧に育てた苗を、田植え機で定植しています。倒伏しないような稲作りをし、品質の低下を抑制します。
また、先月お伝えしました放射性物質ゼロを目指す対策の一環として、栃木県では、塩化加里(加里60%)を10~20kg/10a、もしくは、けい酸加里(加里20%)を20~40kg/10aの加里肥料の施用を推奨しています。

田植え前に放射性物質0を目指した取組を実施しています！



3. 栃木県のイベント情報

●今市田植祭

今市田植祭は「とちぎのまつり100選」に選ばれたお祭りです。

古来より旧今市市で伝承されてきた苗取唄、田植唄の保存し、後世に伝えようと、昔ながらの農作業を再現した祭りです。昭和59年に旧今市市の無形文化財に指定され、また「とちぎのまつり百選」にも選ばれています。まず、馬が代かきを行い、その後、あかねだすきに緋のもんぺ姿の早乙女たちが、田植唄に合わせて手植え作業を披露します。

とき:平成24年5月27日(日曜日)午前9時30分~

場所:主要地方道今市氏家線沿い(小林地内)



●宇都宮COCKTAIL CARNIVAL 2012

宇都宮カクテル倶楽部加盟店など32店舗が出店。

ノンアルコールカクテルを含む43種類のカクテル(クリスタルなどちおとめも出店)を提供。その他、宇都宮市内の人気店がカクテルに合う軽食をご用意します。

全て500円均一とリーズナブル。とちおとめシーズンの最後を飾るビックイベントをどうぞお楽しみください。

とき:平成24年5月20日(日曜日)午後12:00~18:00

場所:宇都宮オリオン通り内 オリオンスクエア



3. 産地紹介 ～栃木県内のJAを紹介します！～

JAなすの

なすのの大地から安全・安心な「食」をお届けいたします



JAなすの管内は栃木県の北端に位置し、大田原市・那須町・那須塩原市の2市1町からなり、東は八溝山系を境に茨城県に、北は那須山脈により福島県に接し、西南は塩谷地区および南那須地区と隣接しています。

総面積は約1,319平方キロメートル、内耕地面積は261平方キロメートルはともに県全体の20%を有し、東・西・北の山岳地帯には那須・塩原等の観光地を抱え、平野部には那珂川水系の河川が流下する那須扇状地が開け、古くは奥州街道の要所として栄え、松尾芭蕉の句碑が点在するなど、まさに「那須野が原の大地」と呼ぶにふさわしい広大で、自然と歴史に彩られた地域です。

また、地区中央部を東北自動車道・東北新幹線が縦貫しており、陸上輸送面で首都圏との距離を大きく近付けています。

農業面では、広大な耕地を生かし、水稻、畜産、園芸が盛んで、水稻は100万俵(1俵60キロ)の生産能力があり、約63万俵を集荷しています。

畜産では、那須町、那須塩原市は酪農が盛んで、特に那須塩原市は生乳の生産量が本州市町村別で全国一を誇ります。和牛も全地域で飼養されており「とちぎ和牛」の主産地です。現在、地元で生産、販売されるものを「那須和牛」としております。

また、首都圏へのアクセスの良さを生かし、イチゴ、ナス、ニラ、梨の他、『那須の白美人ねぎ』、『那須の春香うど』等多品目の園芸作物が作付けされています。



JAなすの 種子温湯消毒施設について

JAなすのでは、平成19年産米から水稻種子もみで薬剤を一切使用しない「種子温湯消毒施設」を導入し水稻種子の生産を行っています。

当JAは、水稻種子(コシヒカリ)の生産地であり、栃木県の指定を受けて県内のコシヒカリ生産量の約40%強の種子を生産しています。

水稻種子もみの消毒はこれまで薬剤を使用して行っていました。全国に先駆けて、当JAでは「種子温湯消毒施設」を導入し、種子消毒の段階で薬剤使用成分を2成分削減しています。

この「種子温湯消毒」の技術は以前からあるものですが、大規模な施設(プラント)で自動的に種子温湯消毒を行うシステムを導入したのは、JAなすのがわが国で一番最初です。

JAなすのは、水稻の薬剤使用回数を削減し、安全・安心な農産物生産に取り組んでいます。



JAグループ栃木

※ 問合せ先 ※

◆内容に関する、ご意見、ご質問、ご感想も、是非、お寄せください。

JA全農とちぎ 米穀課 電話:028-626-2174 FAX:028-621-2037